

相撲界は アメリカ以上に明確で フェアな競争社会



三菱商事顧問室で

山内昌之さん

やまうち・まさゆき 北海道出身。七〇歳。歴史学者。専門は中東・イスラム地域。学術博士。東大名誉教授。明大特任教授。「天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議メンバー」。著書多数。横綱審議委員。

力士にもさまざまな事情 注文相撲も責められない

齋藤 山内先生は昨年八月、天皇陛下がお気持ちを表明されてから有識者会議のメンバーとしてご尽力されました。山内 天皇陛下のご退位を可

齋藤ますみ(聞き手・構成)
大相撲を考える会主宰。平成六年より四年間、日本相撲協会会報で機関紙を発行。本業はリーダーズプロジェクト代表取締役。セカンドキャリア支援研修を手掛け、プロ野球界では話し方研修を実施。著書に「転職は元力士に学びなさい」などがある。

能にする法律を見届けたことは、とても感慨深いです。

齋藤 天皇賜盃をいただき、神事でもある大相撲です。その会議に横審の山内先生が入られたことは相撲ファンとしても誇らしく思います。

山内 昭和天皇はもとより、今の陛下はじめ皇室の皆さまの中に好角家の方が多いのはうれしいことですが、今回の会議については、相撲に関わる者としても歴史家としても光栄に思っています。

齋藤 先生は歴史学者でいらしゃいますが、北大に進み、中東・イスラムを研究テーマに選ばれたのはなぜですか。

山内 子どものころから歴史や政治を人物の面から考えるのが好きで、イスラムとロシアに関心を持つようになったので、大学では当時まだ研究されていなかったソ連の中のイスラムに

ついて勉強し始めました。齋藤 相撲は、いつごろから興味を持たれたのですか。

山内 やはり小学生のころからです。私の幼少期は鏡里や千代の山が最晩年で、栃若が出てきたころだったんですが、巻き替えとか、まわしの切り方とか、技のうまい栃錦が大好きでした。栃錦の初っ切り相手の出羽錦が塩をちよっとまいて、若秩父がどっさりまくのもユーモラスでした。

齋藤 昭和の力士は仕切りや塩まき、取り口に個性がありながらパフォーマンスめいた感じはしませんでしたよね。サーピス精神はあっても、受け狙いではないから、気持ちよく見られた気がします。

山内 ケン味の無い土俵態度は今も昔も人の心を打ちますよね。柏嶋時代は正攻法で電車道の柏戸が大好きで、伝統ある四股名の柏戸を名乗ったときもうれしかったです。

齋藤 では、横綱が立ち合いに変化したたりするのは、あまり好まれないのですか。

山内 白鵬などの場合は相撲を盛り上げてきた功労者です

の断食も行い、お祈りも厳格にしていたようですね。

山内 ラマダーン月は毎年少しづつずれていくので、夏場所に当たるときが必ず来ます。断食は旅人、老人、病人などは免除が許される場合もあるから、解釈の仕方はその力士によつて幅も出てくるでしょう。ただ、今後イスラム圏の入門者が増えたとしても、相撲協会がラマダーン月を避けて本場所を開催することはあり得ません。

齋藤 郷に入っては郷に従えということですね。

山内 ええ。かつてカナダ出身の琴天山は好きな女性ができて一緒に暮らしたいと言った。角界では閑取になる前は部屋で団体生活することになっていたので、特別扱いは認められず、彼は愛を取った。

齋藤 そんなこともありましたね。



明治神宮土俵入り後の稀勢の里と山内氏(ロイヤルパークホテルで1月27日)

からね……。相撲は勝負ですし、それぞれ生活や記録が懸かっている、いろいろな立場や事情もあるでしょうから、立ち合いで変わっても反則ではないと理解することにはしています。齋藤 それが頻繁に行われてもご見解は変わりませんか。

山内 その場合は世界観を聞いてみたくりますね(笑)。

齋藤 了解しました(笑)。

人望やマネジメントに優れた個性と天分を感じる親方衆

齋藤 先生はご著書でも、歴史上の人物がやむにやまれず何らかの行動に出たとき、その背景や心情を解説されています。そこにはリアリティーがありつつ、表現に不快感がないから、多く読者の共感を得られるのでしょね。

山内 私は嫌いな人がいないだけですよ。力士は孫のような年齢の若者だから、宇良も石浦も皆かわい(笑)。学生に対しても好き嫌いで見ていたら教師は務まりません。東大では、五〇点取れば「可」の評価になり、単位が与えられるので、私は加点できそうところを探して不合格者は出さな

相撲界はこれ以上ないほど明確でフェアな社会でもありません。強ければ確実に番付が上がるシステムだから、モンゴルからこんなにも多くの横綱大関を輩出できた。これが官僚の世になれないといった慣例があった、優秀な人材が集中した期は理不尽な結果になります。

齋藤 確かに、相撲界の外国人力士の受け入れ姿勢には一神教ではない日本ならではの、多様な宗教、文化、考え方を認める懐の深さが表れているように思えますね。

山内 相撲界はある意味、アメリカよりもハッキリした競争社会だと思います。大相撲はグローバル化して競争にさらされた結果、外国人が上位を占め

て日本人力士は苦勞しましたが、そこから出てきたのが稀勢の里なんです。

齋藤 そう考えると、横綱稀勢の里の誕生には大きな意味と価値があるのですか。

山内 ええ。そこも含めて彼を横綱にした横審にも幾分か功績はあると思います(笑)。

齋藤 そうですね(笑)。特別な存在である横綱は勝星だけでは総合評価で議論され、皆さんから推されて頂点に立つ。その方が実はハードルが高く、確固たる地位となるので、横綱昇進システムは日本人の英知が結集された形のように思いますね。

山内 今後の大相撲は競技レベルを維持し、他のスポーツに向かう若者をスカウトするうえで、他のスポーツ界との競争も見据えなくてはなりません。精神性に訴えるだけでは有望な人材を呼びにくいので、トップクラスの待遇面の向上は必要だと思います。

齋藤 同時に相撲界の精神性のすばらしさも更に広報できたらいいですね。本日はありがとうございました。

いようにしてました。相撲界で言えば、幕内力士は皆が「優」の合格点というすごい人たちですよ。

齋藤 相撲界の方々に敬意を持っていらっしゃるのですか。

山内 もちろんです。子どもころは、ちびっこ相撲大会に出て勝つとノートや鉛筆をもらったりして、うれしかった思い出があります。力士には憧れていましたが、体力がま

ずダメでした。先輩後輩の序列が厳しく、試練の連続にも「何するものぞ」と頑張る日本の武道の世界は、今の私にはとても務まりません(笑)。

齋藤 横審委員には二年前に就任されていますが、どのような経緯でなられたのですか。

山内 北の湖さんからお話がありました。「東大の歴史学の教授が相撲好きで、本場所もよく見に来ている」と情報が入っていたのでしょうか。

齋藤 北の湖さんは歴史の本を読まれる方としても知られていましたものね。

す。昔の武蔵川理事長(元幕内出羽ノ花は計数に明るく、国会答弁も立派でした。頭の良さは学歴じゃないんですよ。かなりの親方たちが人望、マネジメント能力などもすばらしいと思います。

齋藤 プロスポーツ界でも、選手側がそのまま経営に回って成り立ってきた業界はほかにないので、相撲界は特に優れている方々と言えますね。

相撲のグローバル化で イスラム系力士が増える?

齋藤 相撲のグローバル化が進み、今後モンゴルがさらに経済成長すれば、外国人力士はイスラム圏の若者が中心になると予測する人もいます。先生はどのように思われますか。

山内 大相撲もイスラムも、独特のしきたりがありますが、世界の文化が理解し合うのは文明的にもすばらしいことだと思います。アフリカや中東の人は立派な体をしていて、エジプト出身の大砂嵐に続く若者が出てくる可能性は大いにあります。

齋藤 彼はラマダーン月が名古屋屋敷に当たったとき、日中